

入選

母に気づかせられたこと

山形県 豊田小学校

4年 横地みのり

ある日とつぜん、自分が「分けられる」立場になったとき、とてもさびしい気持ちになることをわたしは知りました。それは夏休み、かぜを引いて熱を出してしまった時のことです。

前日は長井市の花火大会で、家族みんなで川の近くまで見に行きました。目の前で大きく打ちあがる花火を見て、とても感動して帰ってきました。ところが、次の日の朝から少し頭がいたくて、お昼には39度の熱が出てしまいました。

「のどもいたいし、これはコロナかもしれない」と思いました。その日は日曜日で、病院は休みだったので、家でねているしかありませんでした。もしコロナだったら、家族にうつしてしまうかもしれません。そのため、お寺の本どうのおくにある、お客様用の部屋でねることになりました。その部屋は、家族が生活しているところから少しはなれています。夜一人でいると心細い気持ちになって、なみだが出そうになりました。

すると、母が仕事の書類や本などをたくさん持ってきて、

「いっしょにねよう。」と明るく言ってくれました。もしわたしがコロナだったら、そばにいる母にもうつってしまうかもしれないのに、そんなことをひとつも言わずに、いっしょにいてくれたことがとてもうれしくて、ほんとに安心しました。

人と「分けられる」ことは、とてもさびしく、不安で悲しい気持ちになります。わたしはコロナではなかったけれど、かぜを引いたことで「分けられる」かもしれないという不安な気持ちや、一人ぼっちになる悲しい気持ちをたいけんしました。同時に、弱っているときにだれかがそばにいてくれると安心することも、とてもよくわかりました。

そういえば、少し前に弟がコロナにかかったときも、父と母は注意をはらいながら、いつものように弟とすごしていたっけ。わたしは、弟の気持ちを考えないで、近づかないようにすることばかり考えていたことを思い出し、はずかしくなりました。

今は、わたしがされてうれしかったことを、まわりの人にできる人になりたい。もっと人の気持ちを考えられる人になりたい、と思っています。

わたしは、自分から声をかけることが苦手で、見て見ぬふりをしてきましたが、二学期になって自分から声をかけることができるようになりました。見て見ぬふりが「分ける」ことになると気づいたからです。「どうしよう」とこまっている友達に、「どうかしたの?」と声をかけたり、なんでこまっているのかを聞いたりして、できることをいっしょにしています。わたしにとって、これは大きな一歩でした。

夏休みのけいけんが大切なことを気づかせてくれて、わたしを成長させてくれています。